

## 令和4年度 第2回学校評議員会 議事録

日 時：令和5年2月24日（金）午後3時30分～午後4時30分

参加者：【評議員】水谷様（宮城教育大学大学院）、岩田様（JA全農）、  
高橋様（萩の郷福祉工場）、菊地様（青葉山町内会）

【本 校】檜村、藤原、菅野、栗原、中野、会津、下村、松寿、福田、青山、大堀  
藤田、鈴木、川崎

場 所：支援学校 仙台みらい高等学園 本校舎教室 Yellow1.2

### 1 校長挨拶

評議員会に常勤の教職員が参加。来年度の完成年度を迎えるにあたり、皆様からのご助言をお聞きし、全員で学校運営を考えていく。

### 2 評議員紹介

水谷様：ご挨拶

岩田様：ご挨拶

高橋様：ご挨拶

菊地様：ご挨拶

### 3 分掌年度反省報告

#### 【教務部】※分掌統括 会津

- ・活動目標についての振り返り。アセスメントに基づいた個別の生徒指導。達成率が50%、80%、30%となっているが、まだまだできるだろうという思いもあり、達成率を出した。
- ・一部の教科では、横断的な授業計画はできた。
- ・自立活動の時間を使い個別の指導ができた。
- ・「障害特性に基づいた」という部分が、理解や特性に合わせてとなると、もう少しできたのではないかと感じている。
- ・課題と次年度に向けての改善策  
今後、授業計画のすり合わせの時間を作っていく。  
支援部との連携、教材研究の場を増やしていく。

#### 【広報部】※分掌統括 藤田

- ・活動方針、活動目標の報告。
- ・オープンキャンパスや個別相談会の参加人数について報告。

- ・入学者人数において、専攻科の人数が少ない。
- ・正しい情報が中学校の先生に伝わっていなかったため、学校訪問や先生向けの学校説明会等で本校の正しい情報を伝えることができた。
- ・オープンキャンパスの日程を分散させ、正確な情報を伝えられるようにした。
- ・中3生とその他学年を分けて行ったことがよかった。

課題と次年度に向けての改善策

専攻科のあり方を明確にする。

歩留まり対策。今後も継続して研修を行っていく。

中学校の先生へ向けての、学校説明会を夏休み中に行っていく。教育相談実施前。

本校のことを伝える場を作っていく。

秋保かがやき支援学校の開校に伴い、本校の特色をしっかりと伝えていく。

#### 【地域支援部】※分掌統括 中野

- ・進路、支援、研究、保健。教務と生徒指導に関わること、外部の企業様ともかかわることを意識しながら活動してきた。
- ・実習から就労につなげていく。一般就労を目指す。教務と協力しながら行ってきた。
- ・支援、SC カウンセリング、よりよい支援方法を考えていくことが必要。それぞれの生徒に全員が一貫した支援ができるように、ケース会議やケース検討を行ってきた。
- ・研究、アセスメントの有効活用。研究授業を年2回行った。
- ・保健、健康管理、精神面の安定、体調管理等を行ってきた。
- ・達成率について

進路：良好な関係を築けた企業様がある。進路マニュアル等の作成ができた。スムーズに実習先や就労先を決めることができた。統一した支援というところで、担任差が出た部分があった。

支援：カウンセリング実施のフローの作成ができた。ケース会議の運営を、計画的に行えたらさらによい。

研究：研究授業2回、寄宿舎検証3回。生徒にスポットを当てて、考えることができた、生徒の成長を感じることができた。心理士との業務を整理し、検証を重ねていく。

保健：コロナ対応を適切に行うことができた。大きな感染を防いだ。夏休み明けや実習後の体重の変化などを知ることができた。検診後の事後指導を大事に行っていく。

#### 【舎務部】※分掌統括 藤田

- ・寄宿舎の運営に関して。活動目標は分掌に応じて立てた。
- ・総務関連は点検の習慣化で達成できた。本校舎との連絡も漏れなく行えた。

- ・自宅生の生活訓練受け入れによって、統一した支援にあたれなかった。
- ・チェックリストの活用。職員が声掛けをしてしまうこともあった。
- ・コロナ感染、陽性者や濃厚接触者が出た。食事や入浴グループわけや食事時のパーティションの設置等できることは行った。
- ・研修を受け、公立校の取り組みも運営に入れることができた。生活訓練について、目的を明確にし、来年度からは生活習慣が確立したのかを確認する場にしたい。本科1年生のみ実施。
- ・自治会を設置した。今後も生徒が主体的に考えることができるような場を作っていく。生活の環境の場を整えていく。
- ・外部研修。長期休暇中に行えたらよい。
- ・余暇活動について、LEDのライト製作を行った。企業様の社会貢献活動の一環としてボランティア受け入れやクリスマス会を行った。

#### 【事務】※分掌統括 会津

- ・学校が安全に運営できるように。間違いがあったため50%。1件の間違いではあったが、あってはならないものなので評価は50%。
- ・チェックがうまくできていないことがあった。お金の一覧表を作成して、改善しようとしている。

#### 【研修】※分掌統括 中野

- ・3ヵ年計画のうちの2年目。根拠：研究授業の実施や検討はできた。実際にアセスメントを活用し活かしていくところまではつながらなかった。
- ・改善策、教職員が障害の基礎の理解を行っていく。心理士の方にどう関わっていただくかを考えていく。
- ・寄宿舍、本人の意向や保護者のニーズに基づいて支援を行うことができた。指導の統一を行えるようにしていく。

#### 4 【学校評価】※分掌統括 会津

保護者・生徒・教職員にアンケートを行った。昨年、教員の評価が厳しいのではとご指摘いただいた。今年度は評価が上がった。生徒・保護者の満足度も高くなっている。

改善策：悩み、いじめ、相談をどうしたらいいのかが分からない生徒が多い。指導の中で伝えていく。

保護者：学校の教育方針を分かりやすく伝えられていないという部分があるので、伝え方も考えていく。

教職員：校内組織が効率よく機能していない→来年度からは、組織体制を考えなおし、運営しやすくなるようにしていく。

部活動について、次年度は地域の機関に入っただき、運動を卒業後も続けていけるようにしていく。

## 5 【いじめアンケート】※分掌統括 会津

- ・いじめアンケートの実施。いじめについての理解が不足していた。アンケートの実施前に動画で確認してからアンケートを行った。
- ・資料の訂正。3項目目はゼロに訂正する。

## 6 【進路指導について】※分掌統括 中野

- ・進路実指導績について：実習先、卒業生の就職先について。
- ・イオン東北株式会社のように、違う部門での多数の受け入れもあった。実習受け入れの不安(企業様側)。生徒を実際に観てもらおうと安心して受け入れてくださる。
- ・法定雇用率の未達もあり、仙台みらい高等学園の生徒が輝けるような場を探していく。
- ・卒業年次生のみ短期実習を取り入れるなどの取り組みも行った。2人就職が決まった。
- ・企業様へ事前に生徒情報をお伝えし、実習中は巡回など今後も続けていく。
- ・就職移行支援会議を実施していく。生徒に応じて、生徒の居住地や状況に応じて行う。3年の定着支援も行っていく。
- ・課題：事前事後指導の担任差があった。次年度、マニュアルを見直していく。  
アセスメントの活用をしながら進めていく。
- ・企業開拓状況：農業が苦戦している。農業分野は法定雇用率90%の事実がある。

## 7 質疑

**水谷様**：教務部達成率30%のところはどうしていくのか。

→特別支援を知っている教員と知らない教員での差ができています。来年度からは、教材を何個か準備し、選んで指導できるようにしたいと考えています。

**水谷様**：担任差やクラス差が出なくなるために、先生方が自信をもって教えられるようにすることが大切。

**菊地様**：検便の検査はやっているのか。

→実習先からの要望があればやっている。

**菊地様**：先生方も年1回は行うとよいのではないかと。スイーツ校での販売もあるので。

**岩田様**：評価：部によって差があるのではないかと。統一感があってもいいのでは？  
企業だと合格は60点でそれ以上は加点。

学校の取り組みとして、共有しているところが、参考になった。

**水谷様**：大学はSABCの評価BでOK。見かたで変わってくる。Aだと加点。

先生方が励みになっていく評価の方法を考えたらよい。

## 8 指導ご助言

**水谷様**：進路指導。来年が山。マッチングが大切。

専攻科の今後、外部から？内部から？目標点を定めていくことが大事。

いじめアンケートについて、いじめを理解(イメージ)することが難しいのであれば、「友達を尊重しているかアンケート」のように名称を変えて、リスペクトを図るものにしたらどうか。

**岩田様**：宮城県は農業の圏域の窓口がない。設置しようとはしている。

宮城は人がいないとは言っているが、ほかの東北の県に比べれば人はいる。

外国人労働者が足りなくなる、農家さんが高齢化してくるため、人材は必要になる。

**高橋様**：資料から各先生の頑張りが分かる。進路の結果を出さなければならない。この1年を死に物狂いで行う。それが来年につながり、魅力ある学校へ。

**菊地様**：仙台農協9月合併の協議会がある。 仙台・名取・亘理・岩沼の4つ  
来年度は合併のことも面白くなっていくのではないか。

## 9 副校長挨拶

**藤原副校長より**

今年度：1年生本科7人、専攻科6人、計13人

来年度：本科22人、専攻科2人、確定24人

反省をもとに動き、今年度改善できた。ご助言をいただいたことで、今年度より来年度の入学生が大幅に増える結果となった

公立校も定員割れのところがある。再来年度かがやき支援学校の開校もあるので、本校の特色をしっかりと伝えていく必要がある。

実績がすべて。保護者は実績や就職先を見て決めると思うので、独自性を出していく。

来年度は支援学校で始めて食Pro.認定校となった。宮城県アビリンピックでネイル部門をデモ種目として行うことになった。

チーム力が本校の良さだと感じている。謙虚さを持ち続けて取り組んでいきたい。

引き続きご指導、ご支援をお願いしたい。